

坪田信貴著「ビリギャル—学年ビリのギャルが 1 年で偏差値を 40 上げて慶應大学に現役合格した話—」〔文庫特別版〕KADOKAWA 2015 年 4 月 10 日刊を読む

あと 1 カ月あれば、準備万端^{ほんたん}だったのに

1. 受験^{けいこう}もいよいよあと数カ月。この頃には、さやかちゃんも安定した実力を発揮してきていました。慶應という山を 1 歩 1 歩登っているさやかちゃんの実力は、急激な曲線を描いて、かなりの高みに到達してきていました。
2. 模試^{へんさち}の偏差値も、総合で 60 を超えるようになってきたのが高校 3 年の 12 月のことです。つまり、英語だけではなく、苦手教科を含む全教科合わせても全体の中で上位 15%以内に入ってきたわけです。あと少し！
3. やっていることは間違っていない。あとは、時間との勝負です。
正直、すべての教科が「あとちょっと」という感じ。もう「一流」なんだけれど、「超一流」にはなりきれていない状態でした。
4. この頃は、英単語をアホみたいに覚えてもらったり、もう一度流れをおさらいするために、『学研まんが日本の歴史』全巻を週末に 5 周読んでこい！ とお尻^{しり}をたたいたり、はたまた小論文対策として、多面的な視野をさやかちゃんに植えつけるべく、ライブドア事件でちょうどたたかれていたホリエモン^{ほりえたかふみ}（堀江貴文さん）に関してさやかちゃんに話したり——と言った、1 秒もムダにしない、できない、追い込みの時期になっていました。
5. ちなみに、この頃の彼女^{かのじょ}は、ノーメイク・黒髪^{くろかみ}・スウェットという姿でがんばっていました。顔はストレスで太り、ニキビも増え——高校 2 年の夏に来た時のギャルの面影^{おもかげ}は、もうそこにはほとんどありませんでした。実際、髪^{かみ}やファッションに時間をかけている余裕など、もうなかったのです。
6. 「もう私、女捨ててるから」「慶應^{けいおう}うかりてえー——！」
言葉づかいにこそ、まだギャルっぽさを残しながらも、立ち居振る舞^{いふま}いと知識は、もう全然違っていました。
何度も調べ、ループして使い込んでいた辞書のボロボロさが、彼女の成長の跡^{あと}を雄弁^{ゆうべん}に物語っていました。
7. かつて学年でビリだった彼女^{かのじょ}は、学校のテストでも、すべての文系教科で平均点以上^{かくとく}を獲得。模試の成績に関しては、なんと高校 X の最上位の進学クラスである C クラスのほとんどの生徒をぶちぬいて、学年で 3 位にまで急上昇をしていました。学校では寝てばかりだったにもかかわらず……

8. そんな緊迫^{きんぱく}した日々を過ごすいっぽうで、自信を深め、僕^{ぼく}が勢いで「こりゃ、東大にも行けちゃうかもね！」と言うと、調子に乗って「行けるかな？」とか、さやかちゃんが明るく言い出したのがこの頃。しかし、当然ながら、慶應^{けいおう}対策しかしてこなかったさやかちゃんの東大合格判定はなんと「W」。普通は悪くても「E(絶望的)」なのですが、僕^{ぼく}がかつて見たこともない結果をたたき出したさやかちゃんは、「やっぱり面倒だから、東大はやめる」と一瞬^{いっしゅん}で東大を断念したのでした(ちなみに、Wは教科の不足で出る結果です。模試を受けている科目が少ないのに、志望校に勝手に東大と書いたのでこの結果だったのです)。

9. 最後の1ヵ月という時期には、もう徹底^{てっぺい}して①過去問演習、②弱点補強——ひたすらこれを実践^{じっせん}してもらいました。

なお、受験のテクニックで、ひとつ非常に重要なことがあります。それは、受験をする大学の選定の仕方に関して、です。具体的には、

①似た傾向・問題の出し方をする大学の過去問を何度かやってみて、受かったらラッキーなチャレンジ校、本命校、ウォームアップ校(俗にいうすべり止め)の3つの候補^{こうほ}を選定する。

②試験日・合格発表日を考慮し、実際の受験校の選定を行なう。

——という2点について、よく考えるべき、ということです。

10. ①に関して言えば、たとえば、英語での作文やリスニングがあるところとないところを受験校に混ぜると、個別の試験対策をしないといけないので、良くありません。また、たとえば、“慶應^{けいおう}の経済学部^{けいけいぶ}の試験では、日本史の問題は、1600年以降のものしか出ない”と決まっています。その場合、日本史の問題の9割近くが江戸時代以降から出るような大学を、同時受験校に選ぶべきなのです。

11. ②に関しては、本命を受験する前に、「ウォームアップ校にすでに受かっている」とだいたい落ち着いて受験できるので、本命の受験までに、「合格している大学がある」状態をなるべく作れるよう、スケジュールを組むといいでしょう。これが、本命の受験前に「全部落ちて^{むか}いる状態」だったり、「合格発表がまだ」だったりしますと「少々不安な状態」で本命の受験を迎えることになります。これを避けたいわけです。

12. とはいえ、受験では何が起こるかわかりません。ウォームアップ校に落ちても、本命には受かる場合も多々あります。それまで受験した大学に受かっても落ちていても、「一喜一憂^{いっきいちゆう}しない」イメージトレーニングを、早くから徹底^{てっぺい}的に行なっておきましょう。

P168 ~ 171

[コメント]

東宝の大ヒット映画「ビリギャル—学年ビリのギャルが1年で偏差値を40上げて慶應大学に現役合格した話—」坪田塾塾長 坪田信貴先生の原作の文庫版。とても読みやすいので、元の単行本とともに何回も熟読し、学習のコツを掴んでいただきたい。受験生や学習塾、予備校の先生方の基本図書。

— 2015年5月14日 林 明夫記—